

# ふかまちのまど

発行元 深町町会連合会  
連絡所 六三三八二

## 広島県の自然 (10)

元深小学校長 山田 義隆

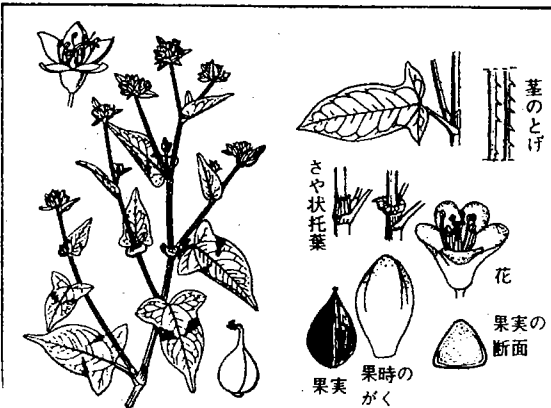
### 「ミソソバ」

ありふれた野草で、野原や道端などの水辺に群生し、夏から秋にかけてかわいらしい花をつける。一見花弁のように見えるのは五枚のがくで花弁はない。色は白から淡紅色、緑白色など異変に富むが、淡紅色が普通である。

日本名ミソソバは、水田などの溝に生え、種子の形がソバに似ていることに由来するが、ソバとはちがう属である。人里で目につきやすいためか、別名も多い。ウシノヒタイ、ゲエルグサ、カイルグサ、コメコメ、コメバナグサ、イデソバ、カワソバなど、葉の形や、花の様子、ソバに似ていることからきたものなど様々である。

ところで、ミソソバには一風変わったタイプが、少し乾燥した山裾あたりに生育している。このタイプは「地下」にも花をつくる。地下につぼみができ、それが開くことなく自分の花粉で受粉して種子をつくる。これを「閉鎖花」とよんでいる。中には地表をはった枝先や茎の途中から降りてきた枝が地面に届かず、先端に閉鎖花をぶら下げているものもある。普通に茎の先に咲く花は「開放花」という。

なぜ山の方のミソソバは二種類の花をつけるのだろうか。閉鎖花は開放花による種子生産がうまくいかなかった場合の救済手段であるらしい。花粉媒介の昆虫の少ないことを補っているのかも知れない。閉鎖花は開花というプロセスを経過しなくてもよいし、少ない花粉で効率よく種子をつくることができる。



一方平地の河原のものは大水におおわれれば、せつかく花を咲かせても種子が実りにくい。開放花にとつて不利な場所なのでほとんど開放花ばかりである。何がこの「平地」の河原タイプと「山」タイプをわけたのだろう。そして、そもそもなぜ地中に花をつけるのだろうか。開放花でもつぼみのまま埋まると実る

### 尚寿会報告

会長 幸谷 満夫



一、慰安旅行  
九月二六日(木)二十名が参加して竹原簡保センターにて温泉と料理を楽しみました。

二、市老連見学旅行参加  
九月二七日(金)岡山県大原の里「武蔵資料館」を訪れました。町職員二人が武蔵と小次郎に扮し、決闘場面の再現と周辺スポットをユーモアたっぷりに紹介して笑いを誘っていました。

三、市老連スポーツ大会参加  
十月二二日(火)市内の一三二人クラブ(会員七四〇〇人)から四三四人の選手とその他約二〇〇人の役員、応援団が三菱和田沖グラウンドに参集しました。選手は五チームに分かれ一三種目の競技を行いました。深町から六人が参加しました。

### 猪撃退法

下組 金堀 伍一



連日に亘り、夜毎に傍若無人と猪があらばれまわる。孤獨な高齢老人が丹精込めて育てた花壇も、ミミズを取るためか夜毎に猪に荒され、近くの農家でも、耕作放棄する人が増加している。

その対策にと、長男が送ってくれた「竹炭と竹酢液で鳥獣が近づかなくなる」という内容の本をたよりに、早速竹炭を焼いた。そして、出来た竹炭をくたき、猪の荒らす花壇にばらまき、竹酢液を小瓶に入れて、困いにぶらさげた。

その夜以来、猪が入らなくなつたので、効果はてき面。どうやら、猪は竹炭の臭が嫌いらしい。猪でお困りの方は、竹炭を焼いて試されては如何ですか。

ものがある。地下で洪水をやり過ごし、開花できずに、あるいは開花を省いて結実に至る場合もあり、それが「地中閉鎖花」への道を開いたのか。まだまだ分らないことは多い。

### ◎深小だよ◎

朝晩めっきり涼しくなり、秋の気配が感じられるころとなりました。学習しやすい時季を迎え、基礎力をつけようとするために、先日一年生と四年生五二人でサンライズ大池を訪問しました。手作りのプレゼントをもって、「歌を聞かせてあげよう。」と人形劇を見せて喜ばせてあげよう。と子どもたちは張り切っていました。

お年寄りの方とゲームをしたり、握手をしたり、お話をしたり、わがが一時間あまの交流とができました。子どもたちはお年寄りの方と頑張りました。握手したりと頑張りました。その子どもたちの様子に、お年寄りの方々が涙を流して喜んでくださり、子どもたちの手を握ってくださりました。

その手のぬくもりから子どもたちは大切な人間のあたたかさを感じ取ることができたようです。また、小さな自分たちがこんな人々を喜ばせたいと、お年寄りに驚きと感動を体験したようです。子どもたちもサンライズ大池の方々からたくさんのお話を聞きました。

サンライズ大池へ行ったよ  
二年 村井 かんた  
今日、サンライズ大池に行きました。プレゼントをあげる時、ぼくは二十人くらいの人とあそびました。今でもよく名前を覚えています。〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんです。ぼくは自分の名前をはっきり言いました。時に住んでいることも言えました。握手も両手でした。

おじいちゃんやおばあちゃんに「いっまでも元気であってください。」と言いました。「ぼくの名前は村井かんたです。」と言った。おばあちゃんが「いい名前じゃね。」と言ってくれたのでうれしかったです。

◆小学校・幼稚園	市連連バレーボール大会	七日
◆地域	深町緑の少年植樹祭	十七日
◆PTA	第一次学習発表会	二十五日
◆移動図書館	来校発表会	二十日
◆学習発表会	発表会	二十四日
◆尚寿会	ゲートボール大会(三原市選手権)	十二日
◆消防団	秋季実戦訓練	九日
◆防災訓練	訓練	十五日
◆子ども会	ソフトボール市長杯	三十日
◆お別れソフト	実施日未定	
◆女性会	親睦会	第二日曜

せんせい あのね  
今日、サンライズ大池にいきました。歌を歌って、ゲームをしました。今度はちがうプレゼントをあげるよ。また、来るからね。こんどは大きくなってからね。サンライズ大池に行つて本当に楽しかったです。また、来るからね。まっけてね。

先月の「ふかまちのまど」の「深小だよ」によると、深小の児童が井手上さんの田んぼで稲刈りを体験し、米作りについて、しっかりと学んだようでした。「農業をしたくないのに田んぼがある」。農業(米作り)がなんとなく敬遠されているご時世ですが、日本の穀物の自給率は三〇%に満たない(農水省・食料需給表)。平成五年の冷害では、米の自給率は七五%となり、国内消費量の五分の一の外国米が緊急輸入されましたが、多くの国民は美味しいうる日本産の米を追い求めていたように記憶しています。

「美味しいものを食べて元気で長生きしたい」のが誰もの願いだと思います。食べ物には生命の源です。「食」は人に良いという漢字でできているし、元気の「氣」は元の漢字は「氣」で、米の字がちゃんと入っています。米国と書いてアメリカと読みますが、本場の米の国は日本です。

米を中心として、体(人)に良い穀物や野菜や果物を作りたいものです。深小の児童は米作りは大変だということを実感したかと思えますが、一方、楽しかったとの感想を述べています。

農業は大切なもの、楽しいものとして取り組んで行くように、深小の児童と一緒に奮起したいと思います。

御調坂物語(8)

石井 静夫

滝の段と桜滝

滝の段

高平川の谷川を荷車を引いて登ると、これ以上は車が登れないところに小さな広場があり、滝の段と呼ばれている。

ここは、用材や薪を運ぶため、牛に車を引かせて綱掛峠(通称ツナケダオという)を越えてたどりつく物置場、作業場のようなどころで、登り下りには誰しもが一息入れるところだった。この広場に格好のよい大きな石があり、行き帰りに疲れた時腰をおろした。

「ドッコイショ」と声をかけながら座ると、急に疲れがとれる不思議な石であるので、ドッコイショ石とも呼ばれていた。ここから真向いに眺める滝の優雅さや、まわりの風景の美しさに見惚れるので、石そのものより眺めが疲れを癒してくれたものである。

悠々と澄んだ谷川の流れと、緑深き森の空気に深呼吸しての一服は格別だったことだろう。この広場も、石も、高平ダムができてから、水と土砂で埋没し、その面影はない。

深町千川神社秋大祭の御礼

宮総代役員 西本一二三

千川神社の秋祭は雨天にもかかわらず、十月十九日夜無事祭典を納めることが出来ました。これも皆様方の御協力の賜物であり役員一同感謝申し上げます。祭りにつきましましては、出費多端なおりににもかかわらず御寄付をお願いし、御出宝御協力頂いた方々には誠に有難うございました。又、各講の役員の皆様には多大な御協力を頂き厚くお礼申し上げます。

当日は一日中雨でしたが祭典時刻には雨も上がり、深小学校六年生と壮青会の皆様による太鼓踊りを神社境内で力強く奉納して頂きました。この太鼓踊りにより小学生の皆さんの将来の思い出ができたことが一番の喜びと思っております。皆様も喜んでおられると思います。児童の皆さん有難うございました。

又、町民の皆様にお願ひ致します。神社に對しましては神樂を奉納するのが本意かと思ひますが、今年には芝居を奉納させて頂きました。神樂と芝居、他のものについて御意見等がありましたら各地区の役員の方まで話

桜滝

高平ダムの西側から流れ落ちる滝がある。滝の高さはおよそ二十メートルで、桜滝と呼ばれている。

かつて、彭祖の滝とともに御調四大滝の一つに数えられ、水量も豊富で見事な滝だった。小橋谷、桜谷、滝の奥などの水を集めて滝となったものだが炎暑の夏でも涼しく、ここは別天地である。

滝の断崖絶壁には、イワヒバ(イワマツ)やシノブが自生しており、以前は危険をおかしても採取し、庭木として大切に育てたものだ。この一帯の山には山桜が自生し、春の開花期(四月上旬)には付近は桜花爛漫。



花にかこまれたこの滝の美しさは、山の自然を彩る風景を象徴するものである。又、ダムの青く澄んだ水に映る逆さ山の姿と、白い滝の水が調和して素晴らしい眺め。山、森、滝、水など雄大な自然の中に身を置き、五感を解き放ち、すべてを享受する素直さが健康につながるものである。健康は人生の最高の宝。

次号 高平ダムと竜泉寺ダムとの別れ

を聞かせて頂ければ来年のステップにもなります。皆様の御意見を聞かせて頂くことにより御要望に近づけるかと思ひますので、御意見をお待ちしています。御協力有難うございました。



＊縁は異なるもの＊

上組 紙谷謹二

おわだまさこ(皇太子妃)かわしまきこ(秋篠宮妃)

斜めに互い違いに読むとやはりおわだまさこかわしまきこ

となります。不思議な縁を感じます。

深町という同じ町内に住むご縁を大切にしたいと思ひます。

藤井川の仲間たち

自然観察指導員 吉原和喜

「新修深郷土誌」深の歴史余話一を拝読して、驚きました。「深町の産物に菌類(いんちん)があつたとは」。(それぞれP79、P61に記載)

菌類とは、漢方薬の材料で、カワラヨモギが原料です。カワラヨモギとは、その名の通り河岸などに自生しているキク科の植物です。

深町でとれたカワラヨモギが他所へ行き、薬として役にたっていた。自然の力は計り知れないし、それを活用した人々の智慧もすばらしいものです。さて、藤井川には、そうした薬草のほかにも、さまざまなきものが生活しています。たとえば、川といえは真つ先に頭に思い浮かぶのは魚。藤井川には、いったい何種類の魚が住んでいたのでしょうか。川に分類される魚は、一般に次のよう



- ① 純淡水魚 一生を真水の場で生活するもの
- ② 回遊魚 一生の間に、真水の場所と海とを往復するもの
- ③ 汽水魚 真水と海水の混ざる場所を中心にして生活しているもの
- ④ 周縁魚 生活の中心は海だが、時に川に入ってくるもの



一九八八〜一九八九年に県立尾道東高校の生物研究部が調べた結果では、七科一九種の川魚が確認されています。それらを先の分類でまとめると次のとおりになります。①にはコイの仲間、②・③にはハゼの仲間が多いのが特徴といえます。

- ① 純淡水魚 川ワムツ、オイカワ、カマツカなど一三種
  - ② 回遊魚 チチブ、ヨシノボリ、ヒナハゼ
  - ③ 汽水魚 マハゼ
  - ④ 周縁魚 スズキ、ボラ
- 魚は、人の生活(特に食生活)と強く結びついていて、そのため、その地域その地域で、呼び慣わさされてきた「地方名」というものがあります。ぜひ、一度、深町の川魚の地方名を学びたいですね。



三原市民体育大会を終えて

深町町内会連合会 体育部長 広川弘之

選手の皆様、本当にお疲れさまでした。そして、早朝より応援に駆けつけていただいた町内の皆様、選手選考からご苦労をおかけした体育委員の皆様、小学校PTA、子供会の役員さん、第二中学校の役員さん、如水館高校の方々と多方面のご協力のもと無事終了することが出来ました。

当日は競技日和に恵まれそれぞれの種目で熱戦がくりひろげられ、選手も持てる力を十分発揮され、二種目で一位となりました。それぞれ一位になられた選手も充実感で一杯だったと思ひますが、私達応援団も大きな感動をもらい感謝している次第です。一位になった選手の紹介をします。

- ◎ 四〇〇Mリレー(男子) 二〇歳未満・二〇歳以上
  - ① 大島 優司(如水館)
  - ② 波間 利也(如水館)
  - ③ 屋敷 誠
  - ④ 西本 誠
- ◎ 紅白玉入れ(女子) 四五秒間 ☆ 三十二個投入
  - ① 岩野 哲美
  - ② 小林 千穂
  - ③ 井手上 瑞江
  - ④ 砂田 早苗
  - ⑤ 北迫 英子
  - ⑥ 西本 真由美
  - ⑦ 小川 真里
  - ⑧ 力武 和恵
  - ⑨ 網掛 千恵子
  - ⑩ 中重 貴江



結果的には小差で木原地区に負け、Bクラス確保の目標を達成することが出来なかつたのは残念である。大会を通じて感じたことは、Bクラスでも十分戦えるという実感があつたのも事実であり大きな収穫であつたと思ひます。来年度に向けて新たな対応が求められますが、なんと云つても選手層の拡大が急務です。深町の人口が増加するにつれて得意な種目を持つている人がきつとおられると思ひます。個人でもグループでも結構です。是非情報をいただきたく思ひます。講(班)の体育委員の方々も日頃から情報を集めていただき、来年度はメリハリのある集中的練習で効果を出していきたいと思ひます。町民運動会そして三原市民体育大会と大きな行事が終わりました。町内の皆様方のご協力のもと、この様な行事をきつかけとして活気ある深町に皆でしていきましよう。

本当にありがとうございます。